

特集ワイド

# 増じわりマスク黒



韓国では黒マスクの若者が目立つソウル市内で8日、堀山明子撮影

## 売り上げ 2年で25倍

現在、国内では数社が黒マスクを販売する。不織布製を販売するピー・エム・シー(東京都千代田区)は昨年、小売店のニーズを受けて作り始めた。「韓国や日本のアイドルがつけたことで人気に火がついた。浅草など外国人の多い観光地で一番売れている。インバウンド効果かも」と話す。

新ポリウレタン素材の3Dタイプ「PITTA MASK」でグッドデザイン賞を受賞したアラクス(名古屋市中)は2014年、遠目には黒に見え

## 韓国、日本のアイドル着用で人気

黒マスクを「怖い」と感じたのはなぜか。日本色彩心理学研究所の主任研究員、高橋水木さんは、色の持つイメージが強い。重病人だと思われぬような柄物や色つぎが売れる。「中国では『平らな顔を立体的に見せられる』と人気だ」と言われる。実際、「黒」小顔効果」とも根強いようだ。

それでも日本では「マスク＝白」が根強い。神奈川県内の市役所に勤める男性(仮)は「役所の窓口で黒マスクをしていたら一瞬で抗議がきますよ」と言う。

最近では日本でもアイドルの黒マスク写真がネットで拡散され、そのたびに話題となる。「ライブでは黒マスクで非日常を演出する」という若者も。日本でも近い将来、その日のファッションに黒やピンク、オレンジでコーディネートする時代が来るかもしれない。

# 雇用・労災保険過

## 勤労統計 04年から不

厚生労働省が公表する「毎月勤労統計」の一部の調査で本来と異なる手法が取られていた問題で、こうした手法が2004年に始まったことが同省関係者への取材で明らかになった。不適切調査の影響で、同統計を基に給付水準が決まる雇用保険や労災保険が



# 改憲しても「不変」とは



安倍晋三首相の4日の年頭記者会見で写真・兵藤公治撮影には「激変」「変化」といった言い回しが目立った。「国際情勢は激変」「変化に真正面から向き合い」「時代の変化を先取り」といったうた。

つまり現代は変化の時代

委員会、あるいは「現行憲法下で積み重ねてきた安全保障の原則は変わらない」(昨年4月、参院決算委)。

憲法は国の骨格である。これを変えるというのに「変わらない」のは本当なのか？首相が「新しい憲法が施行される年にしたい」と訴える2020年まであと一年。そこで「何も変わらない」論を吟味した。

【吉井理記】

2面へ

MAINICHI  
**新毎日**  
夕刊

1月9日(水)  
2019年(平成31年)  
発行所: 東京都千代田区一ツ橋1-1-1  
〒100-8051 電話(03)3212-0321  
毎日新聞東京本社

毎日の「お疲れ」対策。  
ヒト臨床試験済み、産官学連携プロジェクト  
公式飲料  
**イミダペプチド**  
日本予防医薬 <https://japanpm.com>

個々の手続きは適法でも。問われるべきは逮捕を繰り返すし、身柄拘束を続ける捜査当局の「お家芸」では。

海外で人気が高まる「SAKE」で、訪日観光客誘致を。一清酒特区」新設へ。

しかしこれでは。飲酒機長は虚偽釈明。大型クルーズ船

の船長は「飲酒運転」疑惑。

「霊長類最強女子」が選手生活にピリオド。吉田沙保里選手はまた36歳。新たな人生でも「金メダル」を。

サッカー元日本代表の楢岡正剛、中沢佑二両選手も。相次ぐ引退表明に時代の区切りを感じる「平成」最後の年。